

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第22号 令和6年4月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9408 (直通)

武蔵野市長あいさつ

令和5年12月24日の市長選挙の結果を受け、12月25日に市長に就任いたしました。

私は9つの公約の中に、『都市農業の支援』を掲げさせていただきました。特に、毎日の子どもの食生活にとって重要な学校給食においては、市内産農産物の割合を35%にする農業振興基本計画の目標を推進してまいります。

本市では年々農地が減少しており、農業自体が貴重な業種となってきております。そのためにも、市民の皆様にも市内産農産物を味わっていただき、その大切さを知っていただくことが、地産地消に繋がり、農業者を応援することができると考えております。

肥料・資材等の高騰や相続による農地及び農業者数の減少等、農業を取り巻く情勢は依然として厳しい状況ですが、農業者の皆様が安定した農業経営を続けていけるよう、農業委員会をはじめ、関係団体と協力し、市としても支援してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



武蔵野市長
小美濃 安弘

農業委員会の要望活動



▲フレッシュサラダ作戦



▲農家見学会



▲給食センターへ納品

農業委員会では、農業委員会等に関する法律第38条に基づき、国や東京都に対し、意見や要望を提出しています。今ある農地を保全し、農業を継続していく上で、重要な活動となります。農業振興基本計画の見直しにおいては、農地が新鮮で安全な野菜・果物の供給地であってほしい、子どもの農業体験や食農教育ができる場であってほしいというご意見が多数ありました。

今後も市民の皆さまに安全安心な農産物や農業体験の場を提供し、武蔵野市で『農』に触れてもらえる環境を守っていくために、要望活動を通じて関係機関に伝えていきます。

- 東京農業を持続化させるための支援
- 都市農業保全のための都独自の支援策の拡充
- 地産地消の推進
- 環境負荷低減へ向けた支援

要望事項

農産物品評会を開催しました ～ 502点もの農産物が勢揃い～



11月11・12日、むさしのエコre ゾートにて農産物品評会を盛大に開催しました。

1日目は、農業改良普及センターによる審査が行われました。審査員から「甲乙つけがたい」という言葉が出るほど、品質の良いものが多数出品されました。搬入の際は、生産者が出品する農産物を丁寧に運んでいる姿が印象的でした。

2日目には、生産者による解説を含めた一般観覧を行い、即売会を実施。屋外では、宝船の宝分けやCO+LAB MUSASHINO 事業による市内産農産物を使用した商品の販売、ムーちゃんの重さ当てクイズ等、イベントは大盛況のうちに終了しました。



▲審査員も選定に迷っていました



▲武蔵野市長賞の里芋

武蔵野市長賞	後藤 正昭 (境東部)	里芋
武蔵野市 農業委員会長賞	櫻井 敏史 (関前)	青首大根
東京むさし 農業協同組合長賞	田中 武徳 (吉祥寺)	キャベツ
優良農地表彰 (企業的部門)	榎本 春夫 (西窪)	—
優良農地表彰 (都市型部門)	増田 順弘 (境西部)	—
最優秀農家賞	櫻井 敏史 (関前)	—

(敬称略)

農家見学会を開催



▲「何でニンジンがオレンジ色なのかな〜？」

12月2日に市内3軒の生産者の農地で見学・体験を実施しました。当日は天候にも恵まれ、午前・午後合わせて、53組115名が参加しました。

野菜収穫や種まき、農機具に触れる等、初めての体験に歓声があがり、見学会は大好評でした。

葉付きの野菜に触れ、土から収穫できたことがよかった、実際に自分で収穫してみると地場野菜に親しみが持てた、農家と直接話ができ良かったという感想がありました。

また、今後は参加対象を広げてほしい、もっと収穫をさせてほしいという意見もありました。

小学3年生の農業体験

10月17日に吉祥寺北町の高橋栄治さんの畑で、第一小学校の児童が人参・小松菜の収穫体験を行いました。

小松菜の種まきもしてもらい、その小松菜が12月5日の学校給食の食材として、使われました。

給食を食べた他の小学校の児童からも、「シャキシャキしておいしかった」「野菜本来の味が伝わっておいしかった」などの感想もいただきました。



令和5年度に表彰されたみなさま



▲農業者大会会場の昭島市民会館にて

第43回 農業後継者顕彰	名古屋 孝次 (関前)
令和5年度 農業功労者感謝状	中村 孝史 (関前)
令和5年度 新規就業者奨励賞	竹内 邦憲 (境南部)
令和5年度北多摩地区 優秀農業経営者表彰	名古屋 哲雄 (関前)

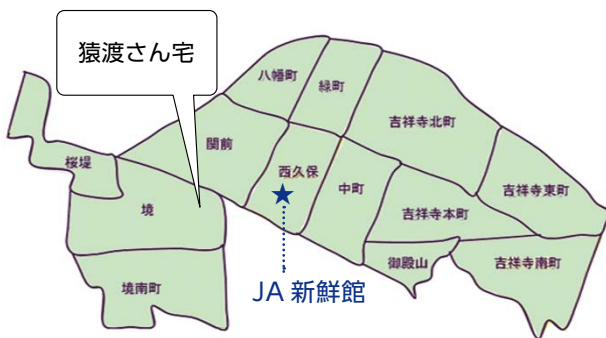
(敬称略)

「新鮮で安全・安心な野菜はすぐそばに」 生産者の笑顔



実(みのり)さん

武蔵野市内で活躍する農家の方々をご紹介します。



豊(ゆたか)さん

猿渡 昇さん (境1丁目在住)



父(3代目)の後を40歳の時に引継ぎ42年。会社勤めをしながらの兼業農家を経て現在に至っています。

農家経験のない奥様が畑に出て近所の農家の方の作業を見様見真似で習得し、二人で農地を守ってきたと仲良く話してくれました。

昨年の秋には落花生の収穫を家族総出で行いました。家族全員の協力があるから頑張っている、皆の支えに感謝して毎日楽しく過ごしています。

無人販売をしています。今までお金の入ってなかったことは無い!と笑顔で話してくれました。

新鮮な野菜の持っている香りと味を最後まで楽しんでほしい!と農家独自の話を聞きました。

野菜を作るには、まず土づくり(地力・ちりょく)腐葉土・鶏糞・米ぬかなどで土台を作り、自ら野菜は(地力・じりき)本来持っている力で成長してってくれる。地力(ちりょく)と地力(じりき)の話は大変興味深いものがありました。

農業者の皆さまへお知らせ

農業者年金に加入しませんか?

- ◆年間60日以上農業に従事している
 - ◆20歳以上60歳未満である
 - ◆国民年金第1号被保険者である
- すべてに該当する方は、当制度で大きなメリットを受けられる可能性があります。
- 詳細は、農業委員会事務局(☎60-1833)へ。

ご相談を受け付けます!

- 最近体調が悪く、思うように作業ができない…
 - 後継者が見つからず、将来が不安…
 - 生産緑地の貸借ってどうやるの?
- どんなささいなことでも構いません。
- お悩みごとがあれば、お気軽に農業委員会事務局(同左)へご相談ください。

スマホで検索

編集後記

5人の広報委員と事務局がそれぞれのパートを受け持ち、取材・原稿作りに取り組んでおります。

編集会議では、ことばの表現、写真の大きさ・位置等、ワイワイ議論しながら作り上げています。

皆さまに楽しく読んでいただけることを願っています。

農業委員会
だよりは
こちら↓



直売所
マップは
こちら↓



食を育む。
むさしのは
こちら↓

